

国際エネルギー機関の概要 (International Energy Agency: IEA)

平成11年9月

1. 設立

IEAは第1次石油危機を契機として、キッシンジャー米国务長官(当時)の提唱により、1974年にOECDの枠組みの下に設立されたエネルギー問題に関する国際機関。事務局所在地はパリ。現事務局長はロバート・ブリドル(英)。

2. 加盟国

OECD加盟29カ国のうちアイスランド、メキシコ、チェッコ、ポーランド、韓国を除く24カ国。

3. 活動内容

- ・IEAの目的は、加盟国における石油を中心としたエネルギー安全保障を確立するとともに、中長期的に安定的なエネルギー需給構造を確立することである。このため、常設部会及び理事会の定期的開催を通じ、石油供給の中断等緊急時の加盟国間の石油融通システムの整備・実施や、石油市場情報の収集・分析、石油輸入依存低減のための省エネルギー、代替エネルギーの促進等について取り組んでいる。
- ・近年は、エネルギー関連の環境問題やロシア及びアジア・太平洋地域等の非加盟国との協力にも積極的に取り組んでいる。

4. わが国にとってのIEAの意義

- ・石油供給の殆どを外国に依存する我が国は、石油供給中断等の際、IEAの緊急時対応システムにより益するところ大であり、我が国のエネルギー安全保障上極めて重要。
(例：湾岸危機の際には、加盟国全体で日量250万バレルの石油を市場に供給可能にする緊急時協調対応計画を実施した結果、過去2回の石油危機に比べて石油消費国の対応が改善された。)
- ・このため我が国は、IEA諸活動に積極的に参加している。日本の分担率は米国に次ぎ第2位(24.96%)。
- ・邦人職員数は、定員約150人中、10人(約6.7%)。

国際エネルギー機関（IEA）機構図

99年10月現在

